

夏休みほぼ毎日駄菓子屋

ほぼ毎月駄菓子屋

取り組みについて

2025年2月20日



作成

夏休みまいにち居場所大作戦実行委員会

代表 千田理子

夏休みほぼまいにち駄菓子屋について



子どもたちをめぐる問題が複雑化しているとメディアなどで取り上げられることも多くなっています。学校や家庭以外で、いつでも安心できる場所の必要性が全国的に高まっています。

千城台や御成台地域でも同様の課題が存在します。そのため、夏休み期間中の毎日、地域の協力者が集まり駄菓子屋を運営、子どもたちに安心できる居場所を提供しました。

夏休み終了時、子どもたちから「夏休み以降もやってほしい」という多数の声をいただき、月1回の「ほぼ毎月駄菓子屋」を第3火曜日にはじめました。

なぜ駄菓子屋なのか

子どもたちにとって「駄菓子屋」は、わくわくする場所であり、楽しい場所です。

また、駄菓子屋はどんな場所なのかイメージがしやすく、子どもたちが受け入れやすい場所です。

このような場所を通じて、子どもたちは楽しみながら地域の大人と関わることができます。またそのことで子どもたちを見守るきっかけを作りたいと考えています。



なぜ夕方から夜にかけて開催するのか

子どものための場所はおよそ5時までで終了になりますが、仕事をしている保護者が5時に帰宅できているとは限りません。

その場合、子どもたちはどこにいたらよいのでしょうか。自宅で過ごすことができる子どももいれば、ひとりで居たくないと思う子どもたちもいるのではないのでしょうか。

保護者が家に帰ってくる時間まで、人の気配を感じながら安心して過ごせる場所を提供したいと考えました。



今年度の実績

2024年度も4月から「ほぼ毎月駄菓子屋」を開催してきました。（毎月第3火曜日15時から20時）

毎月60名ほどの来場者があります。多い時には100名を超えることもあります。

2024年7月13日（土）～8月25日（日）までの夏休み期間中「ほぼ毎日駄菓子屋」を開催し、約1000名の来場者がありました。

子どもたちが安心して過ごせる、気楽に立ち寄れる居場所を駄菓子屋という形で運営し、地域の大人を知ることによって様々な価値観に触れ、見守られている安心感をもって過ごせる居場所を運営します。



駄菓子屋を支える人たち①

2023年の7月、SNSの呼びかけに賛同してくれた人たちを中心に運営しています。

全くのゼロベースですが…

今年の夏休み期間中ほぼ毎日、千城台地区で夕方から夜8時くらいまで、小学生から高校生くらいまでの居場所(っていう言い方あまり好きじゃないのだけど)を一緒にやってもいいよ、という稀有な方。もし万が一いらっしゃったら、連絡ください。

と、つぶやいておきます…

千里の道もひと言のつぶやきから、です。



駄菓子屋を支える人たち②

私たちのミッションは何なのか

私たちの価値は何か。
どのくらいの力量があるのか。
中心に考えるものは何か。

みんなで考えています。

